

丹後に古くから残る天女の伝説。羽衣を身につけて天を舞い、夏の夜にきらめく星空の物語。  
昔、峰山の比治の里にさんねも（三右衛門）という狩人が住んでいました。ある日、狩りに出  
かけたところ、比治山頂上近くで、いい香りと不思議な音楽が聞こえてきました。美しい8人  
の天女が池で水浴びをしていたのです。かわらの木を見ると、1枚の羽衣がかけてあり、さ  
んねもは美しさにうろたえて、それを盗って帰ってしまいました。翌朝、羽衣は返してもらえず、

# この地に伝わる 物語を紐解く

Introducing various local legends

天女はさんねもの嫁になったので、やがて3人の娘も生まれました。秋香や機織り、酒造り  
に才能があったので、里は豊かになり、人々は喜ぶようになりました。天女は喜ぶうちに、  
が死んでしまいましたが、さんねもは、天女に「かみ羽衣」を返すのです。  
天女は喜んで、天へと飛び上がりました。それを思い出したさんねも、天女はさん  
ねもに「七夕に会いましょう」と伝えました。嘆き悲しむさんねもは、天女が残した夕顔の種を  
まき、成長するつるをよじ登って再会しました。天女はさんねもに「天の川に橋をかけてくだ  
さい。完成するまで私のことを思いだしてはいけません」と言いました。しかし、橋の完成間  
近に「もうすぐ会える」と、天女のことを思いだしてしまったのです。とたんに、天の川は大



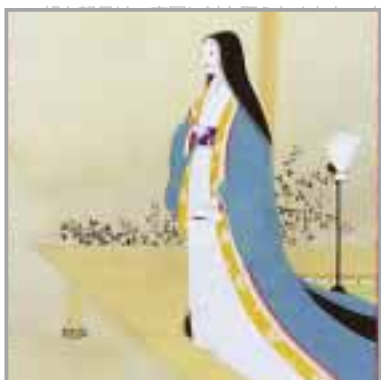
とも、下  
も天を眺  
、老夫婦  
ります。  
和時代、  
ルアシ入  
討伐を決  
徳太子の  
勝祈願の  
老人は「



日本最古の天女物語  
羽衣伝説

麻呂子親王が大活躍  
鬼退治伝説

を親王に託し、鬼退治の戦いが始まりました。親王は、山奥深くに逃げ込んだ鬼。しかし、白い犬が額に掛けていた鏡によって、隠れていた鬼が次々  
と照らし出され、鏡の光は鬼の力をも封じ込めたのです。身動きがとれなくなった鬼のうち英



熊はまた  
き残った男  
土地を一  
年の土地を  
込められ  
び合い、  
く感謝し  
現しまれ  
青年嶋子  
た。そし



弥栄味土野で幽閉  
細川ガラシャ伝説

絶世の美女、最期の地  
小野小町伝説

た嶋子は、島に閉じ込められた。しかし、ここで見たものは主を失った家と、荒れ果てた土地。何十  
年たったのでした。足元に置かれ、悲しむ嶋子は「昔に戻れるのではないか」と思い、玉  
手箱を開けてしまいます。白い煙が立ちのぼり、嶋子はあっという間にしわだらけのお爺さん



は、お  
いわれて  
は網野町  
ました。  
・頼朝に  
余歳の若  
たずんで  
天橋立へ  
人で、絶  
網野五十河



義経最愛の女性の出生地  
静御前伝説

浦嶋太郎ゆかりの敏根(しわえのき)  
浦嶋伝説

として生じた（ガラシャ）は細川忠興に嫁ぎました。嶋子は弥栄  
町味土野に幽閉され、侍女の一人からキリスト教の話を聞き、信仰に救いを求めるようになり  
ます。やがて洗礼を受け「ガラシャ」という名前を授けられました。ガラシャは心の平安を求め  
ながら、この山深い味土野の地で戦国の最中を過ごしたのでした。

# 丹後 羽衣天女伝説

Tango: the legend of the angel with a celestial robe (hagoromo)

丹後に古くから残る天女の伝説。

羽衣を身につけて天を舞い、夏の夜にきらめく星空の物語。

昔、比治の山の頂上に真奈井という美しい池があり、8人の天女が水浴びをしていました。そこへ通りかかった老夫婦が1人の天女の衣を隠してしまい、天に帰れなくなった天女に向かってこう言いました。「わたしには子どもがいません。どうかわたしの子になってください」。これを聞いた天女は一緒に暮らすことにしました。

それから10年余り、天女は一杯飲むと万病が治るという酒をつくり、家のみならず村までも大変豊かになりました。すると、ある日、心変わりした老夫婦が言いました。「お前はわたしの子ではない。出て行



乙女神社

A long, long time ago, eight angels were bathing in a pond known as Manai on a mountain called Hiji. An elderly couple walking past hid the clothing of one of the angels. Unable to return to heaven, the angel was adopted by the couple. More than ten years later, the angel formulated an alcoholic drink that could function as a remedy against all diseases, and the old couple became terribly wealthy as a result. One day, the old couple had a sudden change of heart and decided to cast out the angel. The anguished angel chose to settle in the village of Nagu. This legend of the angel with a celestial robe, Japan's oldest such legend, is inscribed in the Annals of the Tango Realm. This angel is deified in the village of Nagu as Toyouke-no-Omikami. Also entwined in the legend of the angel with a celestial robe is the legend of Tanabata, which outlines how two lovers are allowed to meet only once a year on the night of July 7.

て欲しい」。そこで天女は非常に嘆き悲しみ、はるか空を仰いで、「天の原 ぶりさけ見れば 霞立ち 家路までいて 行方しらすも」と詠み、なんとか奈具の村へとたどり着き、心穏やかに暮らしたということです。

この日本最古の羽衣天女伝説は、和銅6年～霊龜元年(713～715年)の『丹後国風土記』に記されたもので、この天女が奈具の村におまつりしている豊宇賀能売命(豊受大神)とされています。

このほか、羽衣天女伝説には、7月7日の夜、年に一度だけ再会できる七夕伝説も語り継がれています。



女池

## 「元伊勢」伝説を探る

羽衣天女伝説の天女は豊受大神(とようけのおおみかみ)で、延暦(えんりやく)23年(804年)の『止由気宮儀式帳(とゆけのみやぎしきちょう)』によると、雄略(ゆうりやく)天皇の時代、勅命により丹後国比治から伊勢に遷され、神宮の外宮の神としてまつられたとされています。つまり、比治の里と推測される京丹後市は、外宮の故地、元伊勢であると考えられるのです。



藤社神社は、豊受大神をまつっている神社のひとつ。

# 龍伝説

The Dragon Legends

堂々たる角と耳を持ち、上空へのぼり嵐を起こす龍。  
久美浜湾の水中深くに、静かにうごめく龍伝説。

全国を回り布教活動をしていた一遍上人。その様子を描いた絵巻物『一遍聖絵』によると、弘安7年(1284年)5月上旬、一遍上人が久美の浜を訪れ念仏を唱えていると、突然、海中から大きな龍が出現したということです。

ほかにも、久美浜には龍にまつわる物語が数多く見られ、湯舟坂2号墳からは2匹の龍を形どった「金銅装双竜環頭大刀」が出土、また標高約670mで秀峰として名高い高龍寺ヶ岳には龍伝説が残っています。

現在、龍に彩られたこの地で、夏になると「京丹後市ドラ

ゴンカヌー選手権大会」が開催されます。龍の頭の船首をした色とりどりのカヌーがその速さを競い、太鼓の音に合わせて勢いよく久美浜湾を走り抜けます。こうして久美浜に新たな龍伝説が刻まれていくのです。

According to Ippen Hijiie, an ippen holy priest arrived in Kumihama in 1284 and offered an invocation to the Buddha, whereupon a large dragon emerged from below the surface of the sea. Many other tales involving dragons exist in Kumihama. A copper gilt-ringed long sword featuring a double dragon design was unearthed from the Yufunezaka Number Two Mound. A dragon legend is also told in Koryujigatake, which is renowned as a magnificent peak. Presently, dragon boat championship races are held every summer, in the process helping to establish a new dragon legend in Kumihama.

# 鬼退治伝説

The legend of the vanquished demons

目の前にそびえる巨大な鬼の岩屋、立岩。  
鬼退治伝説に隠された古代丹後の歴史。

推古天皇のころ、丹後の国三上ヶ嶽（現在の大江山）では英胡・軽足・土熊（土車）の3匹の鬼が首領となり、人々を苦しめていました。朝廷は用明天皇第三皇子（聖徳太子の異母弟）の麻呂子親王を大將軍に任命し、鬼の討伐に向かわせました。



立岩

その道中、戦勝祈願のため大社に立ち寄ると、伊勢の神の化身である老人がどこからともなく現れて、「この犬が道案内をいたします」と白い犬を差し出しました。

やがて鬼との合戦が始まりました。『斎宮大明神縁起絵巻』には鬼に斬りかかる親王の姿や、鬼に噛みつく犬の姿

が描かれていま

す。山の奥

深くに逃げ込む鬼。しかし、

白い犬が持っていた鏡が鬼たちを照らし見つけ出

し、英胡と軽足は官軍に討ち取られ、土熊は現在の竹野で生け捕りにされ、末代の証拠として、丹後の岩に封じ込められました。その岩が現在の立岩だと伝えられています。

親王は、鬼の平定は神仏のご加護によるものだと深く感謝し、7体の薬師如来像を彫刻し、7つの寺に納めたということです。



斎宮大明神縁起絵巻

Around the time of Empress Suiko, three demons—Eiko, Karuashi, and Tsuchiguma—became chieftains in Mikamigatake of Tango and caused much suffering to be visited upon the people. Ordered to subjugate the demons, Prince Maroko visited a grand shrine to pray for victory, whereupon an old person who was the incarnation of the Grand Shrine of Ise appeared and offered him a white dog. Before long, a battle with the demons began, and the demons fled deep into the mountains. However, the light reflected by a mirror possessed by the white dog revealed then, and Eiko and Karuashi were killed by government forces. Tsuchiguma was taken prisoner and confined to the place known today as Tateiwa as a reminder to all generations to come. The prince carved seven statues of Yakushi-Nyorai (Buddha able to cure all ills) and delivered them to seven temples.

# 浦嶋伝説

The Urashima Legend

多くの人に親しまれてきた浦嶋の伝説。  
あわれにも故郷を失い、白い煙に包まれた嶋子の人生。

釣り好きの青年嶋子は、ある日、美しい乙姫に出会い、夫婦になる約束をした2人は竜宮城に向かいました。そして、3年の歳月が流れ、故郷が恋しくなった嶋子は乙姫に別れを告げます。「開けてはならない」という玉手箱を手に、嶋子は故郷の万景浜に戻りました。しかし、そこで見たものは主を失った家と、荒野原。人間界ではもう何百年もたっていたのです。

途方に暮れ、悲しむ嶋子は「昔に戻れるのではないか」と思い、玉手箱を開けてしまいます。白い煙が立ちのぼり、嶋子はあっといふ間にしわたらけのお爺さんになってしまいました。

網野に残る「しわ榎」は、お爺さんになった嶋子が、悲しみの果てに自分のしわをひきちぎり、投げつけた榎だといわれています。



浦嶋神社



しわ榎

Once upon a time, a youth by the name of Shimako, who enjoyed fishing, encountered a beautiful young princess and after promising to marry her, arrived at The magical Ryugu Castle under the sea. Yearning to return to his hometown three years later, Shimako returned to Manjohama bearing a treasured box that he was prohibited from opening. However, hundreds of years had already passed in the world of humans when a forlorn Shimako decided to open the treasured box, thereby releasing a puff of rising white smoke and turning him into an old man.

# 美しい姫たちの安らぎの地

A land of comfort for beautiful princesses

## 静御前

Shizukagozen

平安時代末期、源義経とともに世をさまよった京の白拍子・静御前。  
「悲恋のカップル」と呼ばれる2人の姿は美しく、はかなく、伝説となった。

静御前は網野町の磯で禅師の娘として生まれました。父の死後、母とともに京都へ上り白拍子になりました。その後、静御前は舞う姿を源義経に見そめられ、愛妾（あいしやう）となりました。しかし義経は兄・頼朝に追われ、子どもも殺されてしまいます。

悲しみに暮れ故郷の磯に帰った静御前は、二十歳歳の若さで世を去りました。磯にある静神社は、悲恋の面影を残すかのようにひっそりとたたずんでいます。

Shizukagozen was born the daughter of a Zen master on the coast of Amino Town. After the death of her father, she moved to Kyoto with her mother and became a shirabyoshi, a Heian court performer. Subsequently, Minamoto-no-Yoshitsune fell in love with Shizukagozen at first sight, and she became his beloved mistress. Unfortunately, Yoshitsune and his child were hunted down by his older brother Yoritomo. A heartbroken Shizukagozen returned to the rocky coast of her hometown and passed away a young lady in her twenties.



泣き別れ岩

## 小野小町

Ono-No-Komachi

小野小町は数多くの男性から求婚された平安時代の歌人。  
穏やかな余生を求めて天橋立へ向かう途中、大宮の地で辞世の句を詠んだ。

小野小町は平安時代を代表する六歌仙の1人で、絶世の美女といわれています。都を離れ、天橋立を目指した小野小町は、途中、大宮町五十河（いしかが）に滞在します。当時の五十河は「五十日」と呼び、「日」の字が「火」に通じることから、小町

によって「河」と改められました。すると、村の火事がなくなり、女性も安産になったという伝承が残っています。

Ono-no-Komachi was one of six great representative poets of the Heian period and was said to be a woman of unsurpassed beauty. Having left the capital, she came to stay in Ikaga in the town of Omiya. Since the last character in the name, "Ikaga Sun," could lead to "fire," Komachi replaced this character with "river." Thereafter, fires no longer occurred in the village.



小野小町の像

## 細川ガラシャ

Hosokawa Gracia

「散りぬべき 時知りてこそ世の中の 花も花なれ 人も人なれ」  
戦乱の世に咲き、はかなく散った聖女の命。

明智光秀の三女として生まれた玉子（たまこ）のちのガラシャ）は細川忠興（ただあき）に嫁ぎました。本能寺の変の後、玉子は弥栄町（みどの）味土野に幽閉され、侍女の1人からキリスト教の話を聞き、信仰に救いを求めるようになります。やがて洗礼を受け「ガラシャ」と

いう名前を授けられました。ガラシャは心の平安を求めながら、この山深い味土野（みどの）の地で戦国の最中を過ごしたのです。

Born the third daughter of Akechi Mitsuhide, Tamako (who would later be known as Gracia) married Hosokawa Tadaoki. After a revolt was carried out by her father at Honnoji Temple, she was confined to Midono in the town of Yasaka, where she converted to Christianity and was given the name Gracia upon receiving her baptism. While searching for peace of mind, Gracia spent the most intense years of the Sengoku period in Midono, located deep in the mountains.



細川ガラシャ夫人の碑